

# 令和6年度 鳥取大学入学者選抜試験問題

(学校推薦型選抜Ⅱ)

## 小 論 文

(医学部 保健学科)

(注意)

1. 問題冊子は、指示があるまで開かないこと。
2. 問題は2ページ、解答用紙は1枚である。指示があってから確認すること。
3. 解答はすべて解答用紙の指定のところに記入すること。
4. 下書きをする場合は、問題冊子の余白を利用してよろしい。
5. 問題冊子は持ち帰ること。
6. 解答用紙は持ち帰ってはならない。
7. 解答用紙の上の欄に受験番号を記入すること。

令和6年度 鳥取大学医学部保健学科入学者選抜試験  
(学校推薦型選抜Ⅱ)

問題 次の課題文を読んで後の問いに答えなさい。

私たちの周りにあふれていることば以外の膨大な情報—。それを研究しているのが、心理学の「ノンバーバル・コミュニケーション」と呼ばれる領域である。最近、言葉よりも、言葉以外の要素の方がより多くの情報を伝達していることが分かってきた。アメリカの心理学者アルバート・マレービアン博士は人が他人から受け取る情報（感情や態度など）の割合について次のような実験結果を発表している。

- 顔の表情 55%
- 声の質（高低）、大きさ、テンポ 38%
- 話す言葉の内容 7%

話す言葉の内容は7%に過ぎない。残りの93%は、顔の表情や声の質だということである。実際には、身だしなみや仕草も大きく影響するだろう。

つついコミュニケーションの「主役」は言葉だと思われがちだが、それは大間違いである。演劇やマンガを主戦場としている私は、人は能力や性格もひっくるめて「見た目が9割」といっても差し支えないのではないかと考えている。

(中略)

モリスによれば人間の動作を信頼できる順に並べると次のようになる。

- ① 自律神経信号
- ② 下肢信号
- ③ 体幹（胴体）信号
- ④ 見分けられない手ぶり
- ⑤ 見分けられる手のジェスチャー
- ⑥ 表情
- ⑦ 言語

自律神経信号というのは、緊張して動悸が激しくなったり、汗をかいたりすることである。これが一番信頼できる。というより、嘘がない。

ここでも最も信頼できない情報が言語であるとされている。言葉では簡単に嘘がつける。その次に嘘がつきやすいのは、表情である。つまり、顔を見ているだけでは、相手の嘘が見抜けないのである。

(中略)

②の下肢信号は、足の動きである。一般に貧乏ゆすりは緊張の表れである。

(中略)

③の体幹信号は、身体の姿勢である。胸を張り過ぎている時は緊張している。

(中略)

④は、微妙な手の動きである。演出家は稽古中手を組んでいることが多いが、芝居が上手くいっていないと、組んだ手の中で、指が微妙に動いていたりするものだ。

出典：竹内一郎、新潮新書 137『人は見た目が9割』（新潮社 2005）p. 18～p. 22  
より抜粋・一部改変。

問. この文章を読み、「人間関係形成におけるコミュニケーション」のあり方について、あなたの考えを 600 字以内で述べなさい。